

第三回 千代田区立九段中等教育学校入学等あり方検討会 議事要旨

日 時 : 令和5年6月20日(火) 午前10時~10時35分

会 場 : 千代田会館10階 研修室

出席者 : [委員長] 大森委員(教育担当部長)

[副委員長] 堀越委員(区立中学校長会会長、麴町中学校長)

[委員] 宇田委員(大妻女子大学教職総合支援センター所長、教授)

野中委員(東京学芸大学特別教授)

浅岡委員(区立小学校長会会長、昌平小学校長)

野村委員(九段中等教育学校長)

山本委員(指導課長)

大塚委員(学務課長)

[事務局] 高田学務係長、石川学務係主事

大塚九段中等教育学校経営企画室長

◇会議の概要

次第1 開会

- ・委員長より開会の宣言

次第2 第二回検討会 議事内容の確認

- ・事務局より、資料1に基づき、前回の議事内容について説明(質疑、意見なし)

次第3 報告書(案)について

- ・事務局より、資料2に基づき、報告書(案)について説明

【質疑応答】

委員長 : この報告書は、九段中等教育学校の入学者決定における男女別定員について、教育委員会で審議する際の本検討会の意見として示すものである。内容について、何かご不明な点やご意見があればお願いしたい。

山本委員 : 報告書の最後、6ページの資料で、「各検討会で使用した資料」と記載されているが、例えば、第二回の他自治体のヒアリング調査結果や民間教育関連機関のヒアリング調査結果は、もう載せているのか。

事務局 : 第二回検討会の資料については、まだホームページ上に公開していない。

宇田委員 : 4ページの中黒の下から2番目、「学校現場では」のあとの「LGBTQ」について。LGBTにQを付けるのか付けないのかというのが、今、非常に微妙だと思うので、確認していただければと思う。

5ページの「配慮すべき事項」について。(2)の最後のほう、「様々なとこ

ろでの環境整備の必要性が課題として想定されるが、丁寧に対応していく必要がある」の「が」だが、「が」はやはり逆説的になるので、これは普通に、「課題として想定されるため、丁寧に対応していく必要がある」と書いてもいいではないか。

(3)の2行目、「大きな偏りが生じると、一方で、」という部分は、「男女比に大きな偏りが生じることにより、麴町中学校、神田一橋中学校に生じる恐れがある」というふうにしたほうが良いのではないかと思う。事務局のほうで検討の一つに入れていただければと思う

山本委員：今、お話のあったLGBTQのところは、区では「LGBTs」としていることが多いのではないかと認識している。そこをどうするかはご検討いただいたほうが良いと思う。

大塚委員：その点については、当区も、国際平和・男女平等人権課で、男女平等行動計画等々を立てているので、区として、どういう取り扱いをしているか、改めて、そちらもあわせて確認したい。

宇田委員：区でずっと使ってきているのがあれば、統一性を持たせて、区の表記を優先してもいいと思う。

野村委員：4の(2)について、「男女別定員を撤廃した場合、女子の割合が多くなるのが推測される」と書いてあるが、なぜ推測されるのかが書いていない。(3)に合わせるのであれば、「撤廃した場合、男女差に偏りが生じる」にしていたほうが良いと思う。ただ、根拠を示すのであれば、例えば、「男女倍率で女子のほうが多いから、女子の割合が多くなるのが推測される」と書かれるといいのかなど。

野中委員：2ページに「全国の公立高等学校で男女別定員を設けているのは、都立高等学校の全日制普通科だけ」とあるが、これは正しいのか。

事務局：関連する情報では、このように説明されている。

野村委員：今のところで、そのあとに、「都立高等学校入試では、例年、大半の学校で女子の合格ラインが男子より高くなる傾向がある」とあるが、この一文はちょっと厳しいというか。男子が高い学校もある。この文言もご検討いただいたほうが良いかと思う。

委員長：皆様の大変貴重なご意見をありがとうございます。いただいた意見は、報告書に反映させて、教育委員会の審議に付したいと考えているが、この男女別定員に関わるテーマでの本検討会の開催は、本日で一旦終了となるため、報告書への反映については、委員長、副委員長にご一任いただきたいと思うが、よろしいか。(委員一同の了承あり)

委員長： それでは、委員長、副委員長で事務局と調整の上、策定していきたいと思う。

次第4 その他事項について

(1) 各委員からの意見・感想

【意見・感想】

委員長： 今回は男女別定員に照準を合わせた検討を行ってきた。非常にタイトなスケジュールの開催となったが、男女別定員の廃止を令和6年度入学者より適用させるべきであるという、本検討会の意見を教育委員会に報告できる形となった。委員の皆様には、ご多忙の中、ご協力をありがとうございました。

委員の皆様から、最後に一言ずつコメントをいただければと思う。

宇田委員： 今回、こういう検討会に関わらせていただいて、九段中等教育学校においては、非常に大きなことだと思う。そういうところで、その場にいらしていただいて、意見を述べさせていただいて、しかも、都立のほうはどう出てくるかわからないが、すごくスピード感をもってやっていけそうなので、いいことだと思っている。ありがとうございました。

野中委員： やるべきことであるならば、先んじてやるということ。特に、九段の場合には、ちょっと特別な学校というところもあるので、それも一つのPRにもなるかなという気がする。そういった意味では、この動きはいいと思う。

今後また、九段では、ここにある中身も含めて、いろいろ打ち出していくところもあるかと思う。そういったところも含めて、ぜひさらに大きく成長していただけたらと思っている。

山本委員： 今回、この検討会に参加させていただき、非常に私自身も勉強になった。先を見据えて、九段中等から、男女枠撤廃を実施していくというところで、基本的には大いに賛成である。ぜひ、進めていただければと思っている。

委員の皆様、それから、事務局の皆様も含めて、おかげさまでいい検討会になったと思っている。

僭越ながら申し上げさせていただくと、会でも申し上げたが、区民・都民の方から、幾ばくかのハレーションがある可能性もあるので、中等教育学校におかれては、丁寧にご説明いただければと思う。また、主管の学務課におかれては、丁寧なご対応をいただければと思う。どうぞよろしく願いたい。ありがとうございます。

大塚委員： 各委員の皆様、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

今後、教育委員会に審議をいただいて、方針を出していただくという流れになるが、この男女別定員枠を廃止していくという流れは、時代の趨勢のかなと、個人的には認識している。その中で、今後、6年度入学から実施して以降が、私は大事なのかなと思っている。

既にこの検討会の中でも、いくつかの課題についてご意見をいただいている。さらに今後は、教育委員会と校長先生以下、九段中等教育学校現場等がしっかりと連携をして、こうした課題に取り組んで、九段中等教育学校が、今後さらに素晴らしい学校として発展することになる大きなきっかけの一つになるようにしていかなければいけないと、また心を新たにしているところである。ありがとうございました。

野村委員：本校の入学のあり方ということで、多くの委員の方にご意見をいただいて、ありがとうございます。

本校では、今年度、例えば、スーパーサイエンスハイスクールの取得を目指しており、また、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育等々、新しいプログラムを検討しようということで、本校の中での委員会だが、外部委員の方に来ていただき、その方向性を固めて、新たな教育内容を考えていこうとしている。今、九段でも、いろいろと特色はあるが、それをさらに、全国的に見ても最先端な教育に取り組もうということで進めている。

そういった意味で、今後、本校の特徴というのを形づけられる中で、都立の中高一貫校でも推薦枠を設けているところ、例えば、帰国子女枠、あるいは白鷗のように伝統文化における推薦枠、小石川のように理数に特化した推薦枠を設けているところもあり、そうしたことが今後必要になるかと思う。また、いろいろとお話をいただく機会があればと思っている。

今回は本当にありがとうございました。

浅岡委員：このような九段中等の入学等のあり方という検討会に参加させていただいて、各委員のお話を聞き、大変学んだところがあった。

小学校は子どもたちを送り出す立場ではあるが、九段中等はもちろん、麴町、神田一橋、それぞれの中学校の中で、子どもたちに輝いてもらいたいと思っている。そういう意味では、小学校教育でどういったことに取り組んでいかななくてはいけないのか。校長会としても、子どもたちには、選抜というハードルはあったとしても、学ぶことは楽しいと思えるような初等教育をしっかりと進めていきたいという思いを新たにしたところである。ありがとうございました。

副委員長：検討会の進行にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

先日、東京都の各地区の中学校長会長だけが集まる会があり、都立高等学校の男女枠撤廃については、まだ公式に示されていない部分もあって、かなり心配している状況であった。そういう状況の中、「そういえば、九段中等は？」というような話があったときに、「検討中です」という回答にとどめてある。

この前、宇田委員から、東京都から下りてきたタイミングを逸しないようにとご助言いただいた中で、今回、非常にスピーディーに結論に近い形での方向が出せたことは、すごくいいと思っている。

また今後とも引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございました。

委員長：皆様の貴重なご意見、ありがとうございました。

男女別定員の廃止については、教育委員会での審議と議決が前提となるが、今後、入学者決定要綱の策定、公表、広報、周知、出願及び適性検査へと、手順・手続きを遅滞なく、遺漏なく、所管において進めていただければと思う。

また、今、野村委員からも、第一回検討会の冒頭での堀米教育長からのご挨拶にもあったが、九段中等教育学校の入学者決定については、推薦枠の設置など、今後も検討すべき課題が残っている。宇田委員、野中委員には、再度、ご助力をお願いすることになると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

千代田区の教育委員会、学校現場とも一丸となって、今後ともより良い教育環境の実現に尽力していくので、引き続きよろしくお願ひしたいと思う。

次第5 閉会

・委員長より閉会の宣言

以上